

# 序

「臨床医学 疾病の成り立ち」は、疾病がどのような原因・メカニズムで発症するのか、疾病により人体の構造や代謝が健常者と比較してどのように変化するのか、疾病によりどのような症状・合併症がみられるのか、疾病を診断するにはどのような検査を行い、どのような検査結果を認めるのか、そして、疾病の治療全般（食事・栄養療法、運動療法、薬物療法、手術療法、その他の療法）を学ぶ学問である。したがって、「臨床医学 疾病の成り立ち」を学ぶためには、「解剖生理学」、「生化学」によって健常者の人体の構造と代謝機能を十分理解しておくことが重要である。

また、「臨床医学 疾病の成り立ち」は、「臨床栄養学」、「栄養管理」、「栄養指導」を学ぶ前提として必要不可欠な学問である。すなわち、疾病の病態についての十分な知識をもつことにより、はじめて、「なぜ、このような栄養療法を行わなければならないのか」、「なぜ、このような栄養療法が有用なのか」を理解することができる。「臨床医学 疾病の成り立ち」は、「解剖生理学」、「生化学」などの基礎的な学問から「臨床栄養学」、「栄養管理」、「栄養指導」などの管理栄養士、栄養士にとって実際の実地臨床を学ぶ学問への橋渡しとなる学問である。

したがって、本書では、「臨床医学 疾病の成り立ち」を学ぶ前提として知っておかなければならない「解剖生理学」、「生化学」、「病理学」の基礎的知識についても十分に解説し、理解し易くなるように努めた。また、「臨床栄養学」、「栄養管理」、「栄養教育」への橋渡しとして、管理栄養士による各疾患の栄養管理についてのポイントを「臨床栄養への入門」に記載した。

本書では、各章のはじめに、その章で最も重要な点を「Point」として箇条書きで示し、最も重要な内容について1つの図に示すことで要点が一目でわかるようになっている。また、各章に関連して、話題になっていること、興味の持てるようなことを「Column」として解説した。記述の中で特に説明を要する語句については、脚注として解説し、重要な内容については可能な限り図表で示すようにして、理解し易いように努めた。各章の終わりには、理解すべき重点点について「チェック問題」を掲載し、解答と詳しい解説を載せているので、是非活用して頂きたい。

本書は「テキスト」と「ノート」の2冊セットにより効果的に学習することを狙った『栄養科学イラストレイテッド』シリーズのテキスト版である。本書で学習した内容を理解しているかどうかを姉妹版の「臨床医学ノート」でチェックし、確実な知識としてもらうことを目指した。是非、2冊合わせて使用することをおすすめする。

本書が皆さんの「臨床医学 疾病の成り立ち」の学習に役立つことを願っている。

2011年9月

田中 明  
宮坂京子  
藤岡由夫